

労働雇用政策室における施策の今後の方向性(案)

東大阪市の特徴

- ・技術力の高いモノづくりをはじめとする中小企業が多数集積 (事業所数24,644社)
* (平成28年 経済センサス活動調査)
- ・6大学が市内及び周辺に立地し、学生の多いまち (学生数53,769人)
* (各大学ホームページ 令和元年5月1日現在)

労働雇用環境の変化

- ・少子高齢化による人口構造の変化
- ・求人倍率の上昇 ・高齢者の躍進
- ・氷河期世代の雇用問題
- ・女性の社会進出の増加
- ・障害者の法定雇用率の引き上げ
- ・外国人労働者の受入れ拡大

2側面からの支援

- ・働く意欲を持つ人への支援 (求職者支援)
- ・人材不足に悩む企業への支援 (企業支援)

人材不足の解消

人口流出・減少の抑制

産業の活性化

まちの活性化

就労を通じた社会進出

人口流出・減少の抑制

ひとりひとりが活躍

まちの活性化

そのためには・・・

多様な人材の積極的な活用(第2回のテーマ)

- ・少子高齢化による人口構造の変化により、人口は減少しているものの、就業者数は増加している。これは、女性と高齢者の活躍が要因となっている。
- ・障害者の法定雇用率が段階的に引き上げられている中、実雇用率も上がっており、今後の活躍が期待される。
- ・外国人労働者の受入れに関する法律が改正され、今後も需要が高まり、拡大することが予想される。

- ・就活ファクトリー東大阪
- ・対象者ごとの合同企業説明会
- ・企業向けセミナー
- ・シルバー人材センター

今後の改善点
アンケート及びヒアリングの結果

学生及び若者へのアプローチ(第3回のテーマ)

- ・本市は、市内及び周辺に6大学が立地し、学生のまちでもあるが、就職期になると、若者世代の転出が目立っているのが実情である。そのため、学生や若者に東大阪市内の企業に興味をもってもらい、就職してもらうことで、人材不足の解消につながり、人口の流出が食い止められる。
- ・氷河期世代の雇用への支援が必要とされている。

- ・就活ファクトリー東大阪
- ・合同企業説明会
- ・業界研究会
- ・人材育成塾
- ・中河内地域若者サポートステーション

今後の改善点
アンケート及びヒアリングの結果

企業への支援(第4回のテーマ)

- ・人口構成が変化しており、少子高齢化が進んでおり、女性、高齢者の就業者数が増加している。また、障害者雇用の実雇用率も上がっており、企業側も、若者だけにこだわらず多様な人材に目を向ける必要がある。
- ・今後は減少するであろう、若者世代の雇用を確保するには、より効果的なアピールが必要となる。

- ・事業所向けアンケート
- ・労政ニュース
- ・企業向けセミナー

今後の改善点
アンケート及びヒアリングの結果

雇用が安定し、働きやすまち

雇用が安定することによって生活が安定し、仕事を通じた社会貢献や生きがいを感じることで暮らしが充実します。また、社会の発展にとっての雇用の安定は欠かすことのできない要素です。

そのため、勤労者の職業能力を向上させるとともに、雇用の安定に努め、若者や就職困難者が安定して就業し、高齢者が生きがいを持って働くことができるまちをつくります。また、勤労者が健康で充実して働くことができ、生きがいのある労働環境を整備します。(第二次総合計画後期基本計画)



○働く意欲を持つ全ての人が就職できる環境づくりをめざす

○働く意欲を持つ人と市内企業がつながる環境づくりをめざす

学生及び若者へのアプローチ

資料2

市内企業に就職するために ・ してもらうために

学校との連携

- ・学校との連携を行うことで、学生へアプローチする機会を作る。

企業と若者をつなげる

- ・東大阪市内企業に興味をもってもらう。

若年層の課題の解消

- ・離職率、失業率が比較的高い
- ・新卒の就業後3年以内の離職率が高い

就職氷河期世代の支援

- ・新卒が有利な雇用市場において、不利
- ・就職活動に積極的になれない

学生の頃から、東大阪市内企業に関する理解を深めてもらい、進路を決める際の選択肢の1つにしてもらう。

東大阪市内企業の情報を得ることで、選択肢の1つにしてもらう。

ミスマッチを防ぐため、企業を選ぶ際に必要なことを伝える。

・企業による積極的雇用の促進。
・就職活動ができるような、就職につながるようなスキルを身につける。

売り手市場である昨今は、学生へのアプローチは、市内企業に目を向けてもらうことが必要とされる。一方、若者へのアプローチは、若年者に特徴的な課題の解消が必要とされる。また、現在の若年者に対する支援事業は39歳以下を想定しているが、それでは就職氷河期世代への支援が届かないことから、対象年齢の引き上げの検討が必要とされる。

市内企業と学生の交流会

『東大阪市内企業社会人近畿大学法学部衣笠ゼミ3年生交流会』

- 【目的】学生にモノづくり企業をはじめとする市内企業を知ってもらい、市内企業を就職先の選択肢の一つにしてもらうこと
 【日時】令和元年11月13日(水) 13時～14時30分
 【場所】近畿大学Eキャンパス C館C-403教室
 【対象者】近畿大学法学部衣笠ゼミの3年生19人
 【参加企業】3社
 【グループワークテーマ】働く上で大切にしたいこと

実施風景



東大阪市内にある企業について(学生向けアンケート抜粋)

- ・以前から興味・関心があった...3人
- ・興味・関心はなかったが、交流会を通じてもっと知りたいと思った...15人
- ・興味・関心はない...1人

企業向けアンケート自由記載抜粋

- ・学生の考えている視点と世間のデータとの違いを感じることができた。生の声を聞くことができ、有意義でした。
- ・今回のようなゼミのワークショップの中で、学生及び大学との接点が増えるといいと思います。

学生向けアンケート自由記載抜粋

- ・今まで自分の聞いたことがある企業しか調べたことがなかったが、そもそもそのような企業を支えているのは今日来てくださったような企業の方々だと感じ、また彼らなりの情熱を感じ、関心を持った。
- ・東大阪がモノづくりの場所ということは知っていたが、仕事について知る機会が無かったので、交流会を通じ、もう少し知りたいと思いました。
- ・社会人の方はプレゼンが上手な方が多く、とても参考になりました。

【所見】

- ・学生に市内企業を知ってもらい、興味を持ってもらうという目的はおおむね達成できた。
- ・学生の就職活動や仕事に対する意見を聞くことができ良かったという企業の担当の方の声が多かった。
- ・普段接することのない社会人とグループワークができ、良い経験になったという学生の声が多かった。
- ・学生に市内企業を知ってもらう機会を提供できれば、興味をもってもらうことができるのではないか。